

140 さいのかみ こふんぐん 幸神古墳群



幸神 1号古墳



幸神 2号古墳

指 定 市 史 跡 昭和47年 5 月5日
 所 在 地 田 口
 所 有 者 新海三社神社



雨川右岸に形成された広大な扇状地の台地上には、幸神、外九間、中原の各地籍に12基の古墳が存在し、これを幸神古墳群と総称している。古墳群の中で比較的原形をとどめている4基が史跡として指定された。

写真に示した幸神1号古墳は、墳丘が3分の2程度残っており、臼田地域に所在する計63基の古墳中では、原形をとどめている点で最高の資料である。12基の古墳は、盗掘や耕作の関係から徐々に削りとられ、石室の残っているのは指定された幸神1・2号古墳、外九間1号古墳、中原1号古墳の4基のみとなった。

史跡指定の4基の古墳は、墳丘径10～12m、高さ3～3.5mを測り、石室は幸神1号古墳が最大で全長7.8m、奥壁幅2.8mを測る。その他は2m×6m前後の石室が築かれている。これらの古墳は平成6年、7年（1994～1995）の調査の結果、古墳の構造に微妙な違いはみられるが古墳石室形式は共に両袖型で、出土遺物から構築年代を推定すると、幸神1号古墳が6～7世紀代、その他は7世紀代に構築され、8～9世紀まで追葬されていることが判明した。